

仁淀川町の

# 林業

## 地域を支える林業

高知県の森林率は全国トップで、県土の84%を占めています。仁淀川町はそれをさらに上回る89%で、このうち74%はスギやヒノキなどの人工林です。人の手によつて植林された木は、切り出しで木材になるまで、間伐や下刈りなどの手入れをしながら、長い年月をかけて育てられます。ところが、全国の山村では森林の荒廃化が進んでいるのが現状です。

そんな中、仁淀川町では、先人から受け継いできた森を残そうと、個人や団体、企業などが森の守り手となつて積極的な森づくりが進められています。その中のひとり西森功さんは、多くの小規模所有者が持つ森林を取りまとめながら、森の中に作業道をつけ、間伐や集材、搬出を行う作業をしています。これにより、収益の還元や安定的な雇用、後継

者の育成にもつながっています。仁淀川町では2005年から、木質バイオマスを使った発電や木質燃料をつくるエネルギー自給システムも事業化しました。間伐材などを有効利用しながら、森林の再生とエネルギーの地産地消、地域循環型社会の実現を目指す取り組みとして期待されています。また、仁淀川町は2016年から、移住者を受け

入れて担い手を育成する「林業研修生制度」も始めました。森は、木材を供給するのはもちろんのこと、美しい水や空気を育み、豊かな水を蓄え、災害防止や生態系の維持など大切な役割があります。森を守ることと同時に、人々の暮らし全体を守ることもあるのです。

# 人は森と共に生きる

高性能林業機械を使って、森の中を整備する西森功さん(左)。

